

新燃岳 2025 年 6 月 26 日噴火の火山灰構成粒子の特徴

新燃岳 2025 年 6 月 26 日噴火で噴出された火山灰は、黒色や灰色を呈する不透明な岩片と遊離結晶片が主体で、白色不透明岩片を含む。発泡痕をもつ黒色～暗褐色ガラス片はほとんど含まれない。構成粒子の種類に関しては、6 月 22 日噴火で放出された火山灰との間に顕著な変化は認められない。

霧島火山新燃岳では、2025 年 6 月 22 日の噴火以来、断続的に噴火が継続していた（6 月 26 日現在）。噴火の推移に注視が必要な状況であることから、2025 年 6 月 26 日の噴出物について、火山灰の構成物の特徴と量比を報告する。宮崎地方気象台が、同日 10 時 10 分に宮崎県西諸県郡高原町役場で採取した火山灰を、蒸留水で水洗後、125-250 μm に篩い分け、キーエンス社のデジタルマイクロスコープ（VHX-8000）で観察した。この試料は礫（ $>2\text{ mm}$ ）を含まず細粒砂（0.13-0.25 mm）以下の粒径である。

観察対象とした約 1000 粒子の構成物量比を算出したところ、斜長石や輝石などの遊離結晶片（図 1，C）が約 13 %，黒色や灰色を呈する不透明な岩片（DL）が約 64 %を占める。熱水変質を受けた粒子と考えられる白色不透明岩片（WL）は約 2 %で、これらはしばしば黄鉄鉱を伴う。赤色の酸化岩片（RL）は約 3 %含まれていた。この他、比較的新鮮に見える粒子として、緻密でやや透明感のある淡色粒子（LP）が約 3%，光沢を有し発泡痕をもつ黒色～暗褐色ガラス片（DG）は 1 %未満であった（約 1000 粒子のうち 1 粒のみ）。光学顕微鏡下では区別が難しい約 15 %を未分類とした。6 月 22 日噴火で採取された火山灰の構成粒子比と比較すると、黒色や灰色を呈する不透明な岩片（DL）が増加し、遊離結晶片（C）と発泡痕をもつ黒色～暗褐色ガラス片（DG）が減少したが、構成粒子の種類に変化はなかった。

火山灰の構成粒子の特徴から、新燃岳火口内に存在する既存の溶岩（2011 年や 2018 年の溶岩等）が吹き飛ばされている状況に大きな変化はないと推察される。今後も新燃岳の動向に注視して火山灰構成粒子の変化を把握し続ける必要がある。

参考：

- ・ [新燃岳 2025 年 6 月 22 日噴火の火山灰構成粒子の特徴：2025 年 6 月 27 日](#)，産総研地質調査総合センター

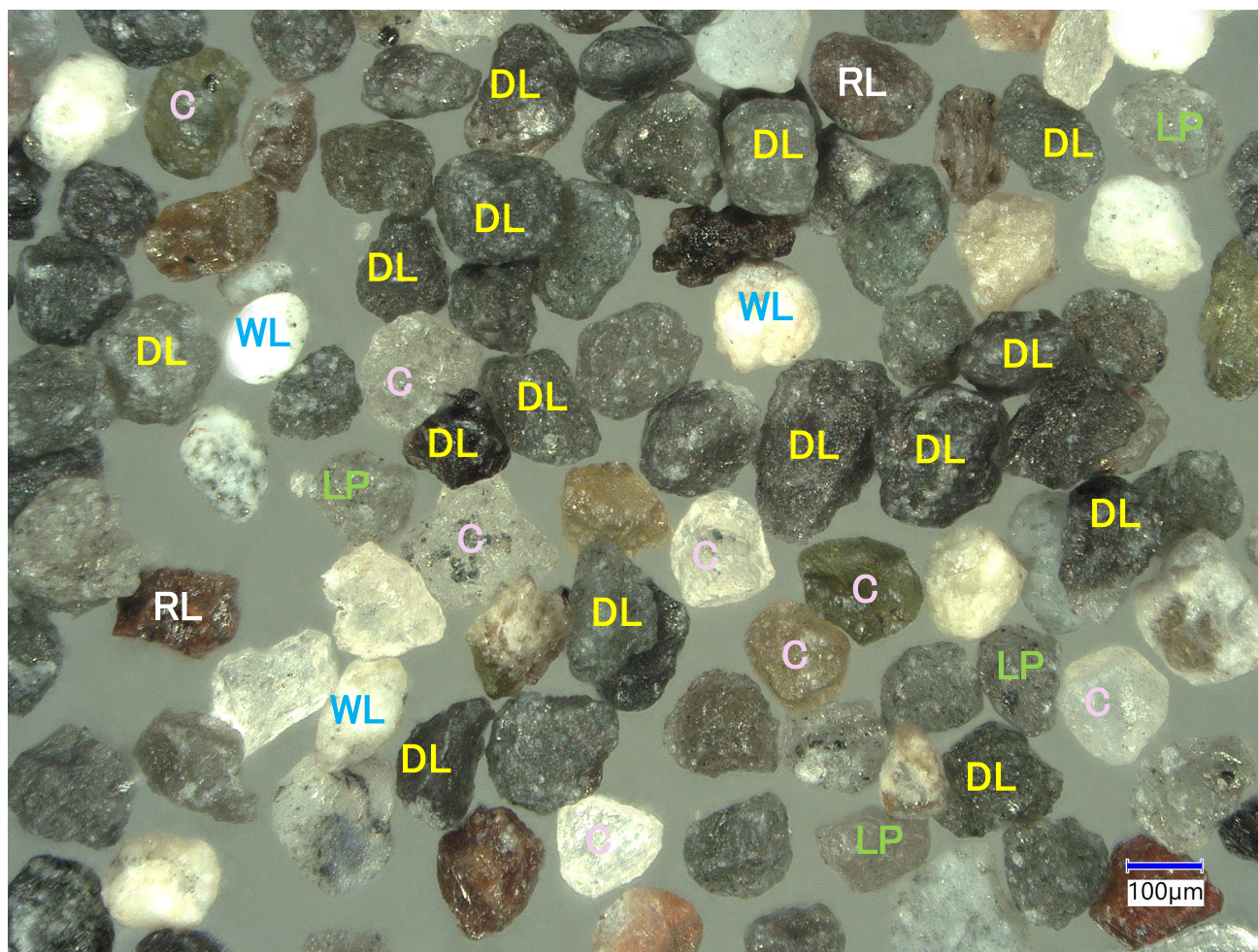


図 1 2025 年 6 月 26 日 10 時 10 分に宮崎県西諸県郡高原町役場で採取された火山灰の構成粒子（粒径 125-250 μm ）. 宮崎地方気象台採取. 分類も示す（略号については本文を参照のこと）.